

085 出産施設選択理由と大学病院での出産に対するイメージ調査

—一般女性を対象として—

岐阜大学 医学部 附属病院

○工藤 真理、三輪 峰子

近年は少子化の時代を迎えており、1人の女性が一生のうちに出産する子どもの数を表す合計特殊出生率は、2003年に1.29となっている。少子化の中、近年は出産が安全に終了するだけでなく、妊婦・家族のニーズにあった出産を援助することがケア提供者に求められている。

先行研究によると理想の出産のイメージは「母子ともに安全」であり、出産場所選択の主な理由は「緊急に対応できる」であると言われている。G大学病院はこれらの要素を満たしているが、出産件数は年々減少しておりG大学病院に勤務する看護師もG大学病院を出産施設として選択しない現状がある。そこで、前回G大学病院の看護師を対象にしてSD法を用いて「出産施設選択理由と大学病院での出産に対するイメージについて」調査を行ったところ出産施設選択理由の上位は「緊急に対応できる」「自宅・実家から近い」「医療関係者が親切である」であり、G大学病院での出産に対するイメージは「安全」であるが「特別」「重症」「恥ずかしい」という結果であった。

今回、一般女性に対して同様の調査を行い、一般女性の出産施設選択理由とG大学病院で出産することに対するイメージを明らかにし、前回の調査と比較検討を行ったので報告する。